

16

下ト
信
不
送

至急

新南群島委任法
事務

發信用執務用	
主信	1 / 2
附甲	
附乙	
附丙	
附丁	
備考	

文書課長 田中

文書課發送昭濶拾壹年壹月拾八日發送濟

主管 政務局長

普通第 號

昭和 年 月 日

昭和 11 年 1 月 18 日

起草

昭濶拾壹年壹月拾八日

受 新南群島委任法事務
加藤義光

信 人 加藤義光

名 件 新南群島委任法事務

件 復 一月於四日附其任之以上事務

公 信 案 新南群島委任法事務

外務省

公 信 案

外 務 省

六件、昭和八年八月併南西國政府先占之
 言ヲ生シテ、對シ帝國政府、同國先占之
 又難キ方、同國政府ニ申入、
 未カ解決ニ到達シ、
 予ニ何右様申知相成候、
 先ハ右要用ニ
 數具

11
5

拜復一月十四日附貫信ヲ以テ新南群島ニ關シ御問合ノ趣了承致候
本件ハ昭和八年八月佛蘭西國政府カ先占ノ宣言ヲナシタルニ對シ帝
國政府ハ同國ノ先占ヲ認メ難キ旨同國政府ニ申入レタルモ未タ解決
ニ到達シ居ラサル次第ニ付右様御了知相成度候

先ハ右要用迄 敬具
昭和十一年一月十八日

東 郷 外務省歐亞局長

ラサ工業株式會社
加 藤 東京出張所所長殿

外 務 省

10. 12

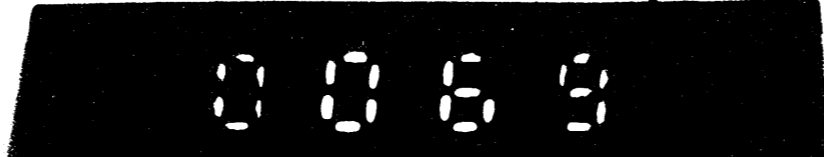
REEL No. A-0449

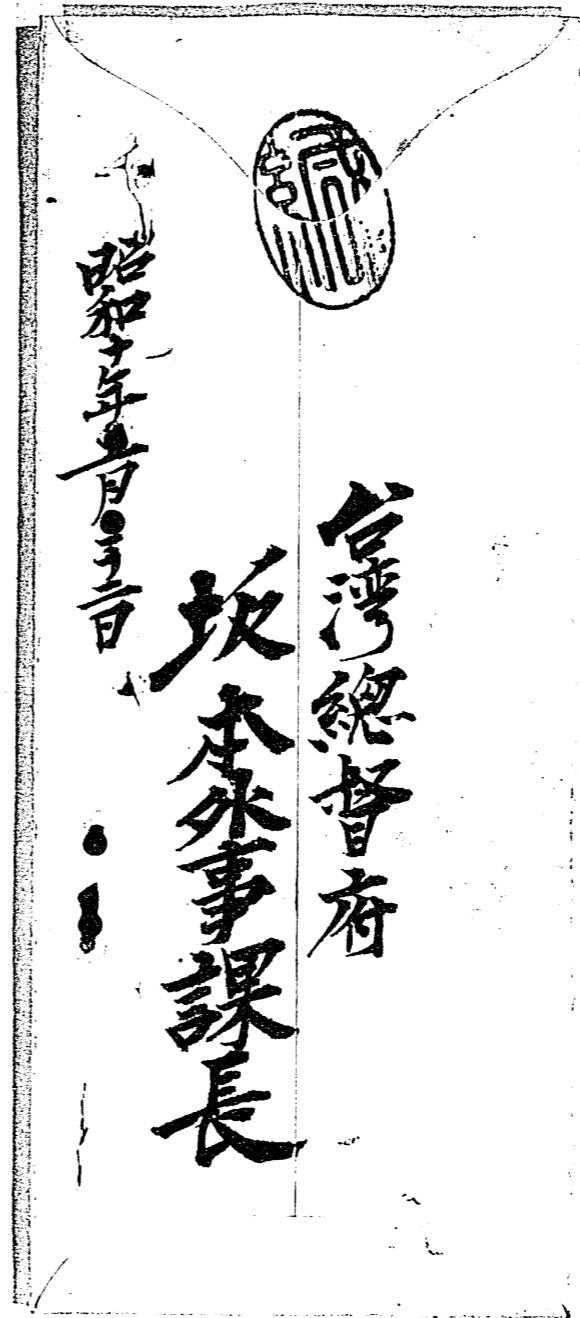
0068

アジア歴史資料センター

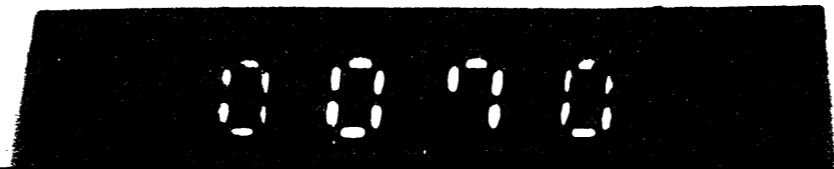
東京市外務省
吉田英島第二課長殿
書留 必親展
機一四八

REEL No. A-0449





REEL No. A-0449



發信用執務用			
主信	/	/	/
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考			

懸案

公文信案	新南群島歸屬ニ関スル件	名件	名 人 信 受	管 主	文書課長
		名件録記	名 人 信 發	任 主	文書課發送昭和拾壹年壹月廿九日發送済
外務省	本件ニ関シ本年一月十四日附陸地測量部製業第一號ヲ以テ仰照會ノ趣請承新南		陸地測量部	陸地測量部	昭和二年一月四日起草
			外務省 陸地測量部第二課	普通第三七號	正校(原稿) 〇〇 (淨書)
				昭和拾壹年壹月廿八日附	
				附屬	

28 21

群島ハ昭和八年八月佛蘭西政府カ其一先
 占ラ宣言シタルニ對シ帝國政府ニ於テ右先
 占ヲ認メ難キ旨佛國政府ニ對シ申入レ未タ
 解決ニ至ラサル事情アリ 從テ同群島ニ関
 シテハ業々日佛兩國間ニ係争中ト記載
 單々ト最モ多ク考テリト思考ス

18

大臣
次官

極秘

歐亞局

歐亞局長

昭和十一年五月十八日

第二課長

臺灣總督官房外事課長 坂本龍

外務省歐亞課第二課長 吉田丹一郎殿



外發第八六八號

新南群島ヨリノ歸來者談ニ關スル件

五月三日高雄州水産試験船高雄丸ニ便乘新南群島方面ニ視察ニ赴キタル
在高雄平田末治同月十三日歸高、大要左ノ通歸來談ヲ致シタル旨高雄州
知事ヨリ通報有之候ニ付貴官限リノ御含迄ニ
右御内報申進候

記

自分ハ今回新南群島方面開發ヲ目的トシテ組織セル開洋産業株式會社（
資本金十萬圓ニシテ一流財閥ヲ網羅セル國策會社ナリ而シテ役員ハ楨

臺灣總督府

昭和十一年五月廿五日接受

近來將末必
内閣生ズベシ

鹽水港製糖會社社長（伊藤（日本鑛業社長）森（日本電氣工業社長）
平田末治（常務取締役）等ナリト）ノ事業開始準備トシテ視察ニ赴キ
タルモノナルカ海軍トシテモ同方面ニツイテハ特ニ重大ナル關心ヲ有
シ現在數十名ノ兵士ヲ派遣シ各種作業ニ從事中ニシテ其ノ勞苦ハ全ク
同情ニ値スルモノアリ而シテ會社トシテハ同島ヲ中心トシテ貝類採取
其他漁場ノ開發ノ必要上同島ニ於テ近キ將來ニ無電其他飛行場等ノ建
設ヲナス豫定ナリ

臺灣總督府

大臣

次官

事務
次官

歐亞局長

事務

第三課長

事務

四三十一〇

(美濃半截野紙) (1)

閣議決定案

佛國政府ハ昭和八年七月二十四日附在佛大使館宛公文ヲ以テ前支那に海ニ所立スル「スフランソール」島以下六島ノ主権ハ爾今佛國ニ屬スル旨ヲ通告シ来リ然ルニ右諸礁島ハ曾テ教次邦人中船査セルモノナラス特ニ大正七年以來「ラサール」島燐礦株式會社ハ同礁島ノ「ダール」及燐礦採取其ノ他ノ資源開發ノ計劃シ同丁一年以來之カ終言ニ從事シシモノ也昭和四年「經濟」界不況ノ爲引揚テ餘儀ナク「スフランソール」島ノ加立右礁島ハ燐礦及「ダール」以外ニ水産

外務省

10. 11.

(美濃半截野紙) (1)

業其ノ他ノ經濟的價値アルモノナラス事「事」ノ利用價値ニ付テモ重視スルノ要アリ帝國トシテム之カ主権ノ他國ニ降承スル人好マレカラストレ佛國政府ニ對シテ事件島此ノ領有ヲ宣言シルヲ妥當ト認ルモノニシテ其ノ深甚シク考慮ソ亦ラハ昔申入レタル及佛國政府ハ右帝國政府ノ主張ヲ承認セザリレツテ爾來帝國政府ニ於テハ向題ヲ未決ノ儘ニ置ク方針ニ甚キテ行動シ来リタリ然レニ今回互甚度民間ニ於テハ同礁島開發ヲ目的トスル會社ヲ創立スルノ計畫ヲ進メテアリトノ情報アリ進テ將來「スフランソール」島線

外務省

10. 11.

電信ノ設備ヲ為サントスル計畫アリトノコト
トシ度本件島嶼所屬問題ニツキテハ
前記ノ経緯アリテ我方ハ佛國ノ先占ヲ
否認スルモ我方ニ降屬スヘキマナリトモ
張さんコトナキノミナス佛國カ其領有ヲ宣
言シタル事毎之ハ之ヲ顧慮スルノ要アリテ我方
ニ於テ降屬未定ノ人ラ日前記ニ誌施設ヲ
行フニ於テハ佛國ノ當然領土權ノ侵害ナリ
トナスヘク而カモ此ノ所施設ノ利スル所ハ性質
上重大ナル國際紛議ヲ惹起スルニ値スルヲ認
メラレルヲ以テ此種施設ハ之ヲ抑止スルニト
致度

外務省

(美濃半截野紙)

閣議決定案

(何項ノ決定案ナリヤ) 號

臺灣高雄市居住平田末治ナル者一部資本家後援ノ下ニ南支那海新南
群島方面開發ヲ目的トスル會社創立ノ計畫ヲ進メツツアリトノ情報
アリ近キ將來ニ於テ無線電信ノ設備ヲ爲サントスル計畫アリトノ事
ナルガ本件ニ關シテハ關係各大臣ニ於テ左ノ趣旨ニ依リ措置スルコ
トト致度

新南群島領有問題ニ關シテハ帝國政府ハ昭和八年八月十五日閣議決
定經タル根本方針ニ基キ佛國ノ先占ヲ認メストノ態度ヲ堅持シ問題
ヲ未決ノ儘將來ニ殘シ置クヲ得策ト認メ行動シ來レル處現下ノ事態
ニ於テ我方ガ同群島ノ開發ニ着手スルガ如キハ徒ニ國際間ノ事端ヲ
繁クシ帝國ニ不利ナル事態ヲ招致スル惧アルノミナラズ南洋方面ニ
對スル惡影響ヲ豫測セララルヲ以テ斯ル計畫ハ之ヲ抑止スルト共ニ
同群島領有問題ハ尙暫ク之ヲ未決ノ儘ニ殘シ置クコトトス

外務省

局長

昭和十一年十二月十日

斗南群島各港總督府予岸一團之件 執

海軍省軍務司第一課神中佐ヨシ左衛門ヲ出タリ

一 斗南群島南端ニ因シ本年六月十日ヨリ外務大臣海

軍ニ相會議ニテ決合アリ 海軍側ハ外務側ノ請解

ヲ賜ヒ艦トシテ着々同群島澳業前途根據地設置

ヲ始メ事ヲ博識ニ各港總督府ニモ請解ヲ許サセ

予岸計上方面送ラザリ

二 此ニ其後外務海軍ニ事務ヲ接續ニ承

外務省

ヲ意見対立シ其ノ体勢別レトナリ

三 各港總督府ハ十二年迄予岸ニ斗南群島

澳業補助五万圓ノ支給規則ヲ設置四万六千

圓ヲ計上シザリ 大臣有トシテハ外務側ノ承諾

アリニ取テハ認め差支ナシトシテ外務省ヨリ

大臣有一同意ノ旨ヲ傳ヘテ居ル

四 本日(廿二日)ノ内閣ヲ大ニシテ海軍大臣ヨリ

提出ニシテ決ラザリ 閣下希望ナリ 以上

外務省

政要の如く談、(東洋の如く)

一、我南群島に因りて、新しき施設ヲナサント、之に前ノ

内閣決定アリ。之ヲ改メサル限リ外務省トシテハ、

同之を能ハス。

二、本年六月廿六日ノ相會議ニテ外務大臣ハ海軍

例ニ何等海軍ノ其ハ不承、又之相言ニテ右内閣ヲ表

示シ、此ノ如クハ

三、故ニ海軍例トシテハ外務省ノ支店通リニウ

二月廿三日

外務省

内閣ノ内閣職ニ持出サレテハ、如ク。

右ノ旨、神中佐ニ返すニ置ケリ。

(中佐ハ大臣ヲ初スヨリ、ナカレハシトテ、ヒカリ)

外務省

而シテ海軍側ハ新南群島進出策トシテハ漁業根據地經營ヲ最モ適當ト認メ一方技術的ニ當業者ヲ支援シ其ノ進出ヲ容易ナラシムルト共ニ他方臺灣總督府ヲシテ經濟的援助ヲ行ハシメントナシ居リタル處偶々前顯臺灣高雄在住平田某ナルモノ現ニ高雄ヲ根據トスル「ブラタス」島海人草採集事業ニ關係シ居リ且同人ハ軍部トモ相當密接ナル關係ヲ有シ居ルヲ以テ同人及是ト關係淺カラヌ檳榔水港製糖社長其他ヲシテ資本金十萬圓ノ一開發會社ヲ設立セシメ、他方總督府トモ話合ノ上同社補助金ヲ豫算ニ計上セシムルニ至リタルモノニシテ(十一年豫算ニ五萬圓ノ計上アリタルモ外務省ノ反對ニテ削除セラレタルガ十二年度豫算ニ於テモ五萬圓ノ補助金ヲ計上セラレ居レリ)最近ノ情報ニヨレバ平田ハ檳榔水港製糖社長、伊藤日本鑛業社長、森日本電氣工業社長ト共ニ新南群島開發ヲ目的トスル開洋産業株式會社ヲ設立シ其ノ事業開始準備トシテ本年五月同島方面ノ視察ニ赴キタルガ海軍ニ於テモ現在數十名ノ

兵士ヲ派遣シ、無電、飛行場ノ設置ヲナシ居ル由語レル趣ナリ
 四 新南群島開發計畫ノ國際關係ニ及ボス影響

前述ノ如ク同群島ノ歸屬ニ付テハ我方トシテハ佛國政府ノ領有ヲ認メズ問題ヲ未決ノ儘置カントスル方針ナルガ前記開發計劃ハ右方針ニ背馳スルノミナラズ他日必ズ佛國政府トノ間ニ新ナル紛争ヲ惹起セシムルノ虞アルモノニシテ其ノ國際關係ニ及ボス影響モ鮮カラザルモノアル様思考セラル
 即漁業根據地開設ハ既存ノ「ラサ」鑛業會社ノ事業再開ト異リ新規事業ノ開始ナルノミナラズ棧橋、無電臺、飛行場ノ建設、海賊防禦用武器ノ存置ハ直チニ軍事施設ヲナシ居ルヤノ疑惑ヲ生ゼシムルベク殊ニ海軍ノ援助及臺灣總督府ノ補助關係明トナルニ於テハ一層其ノ疑惑ヲ増サシムベク右ガ最近ノ日獨防共協定ノ締結ト相俟チ日佛關係ヲ惡化セシムベキハ想像ニ難カラズ紛争惹起ノ結果ハ何等カ解決ニ迫ラレ問題ヲ未決ノ儘置クノ方針ヲ貫徹スル

ヲ得ザルベク、傍法的根據ヨリ見テ我方ニ有利ナル解決必スシモ期待シ得ベカラズ、更ニ日佛紛争表面化スルニ於テハ同群島ノ地理的地位ニ鑑ミ米、蘭印及英國ガ日本ノ南洋ニ對スル眞意ニ付種々憶測ヲ逞シクスベク我ガ對南方政策ノ前途ニ更ニ暗影ヲ投ズルニ至ルベキヤ必セリ

斯ルカ故ニ本省トシテハ昭和八年八月閣議決定ノ次第ヲ此際改メテ閣議ニ於テ再確認ヲ求ムヘク海軍側ニ提議シ若シ閣議ニ於テ新ナル方針決定セラレバ兎ニ角然ラサル限り既定方針ニ據ルヘキモノナル旨海軍側ニ申入レタル處海軍側ハ現ニ考慮中トノミヲ以テ閣議提出ニ同意シ來ラサルナリ

閣議決定案

佛國政府ハ昭和八年七月二十四日附在佛大使館宛公文ヲ以テ南支那海ニ所在スル「スブラソ」島以下六島ノ主權ハ爾今佛國ニ屬スル旨ヲ通告シ來レリ然ルニ右諸礁島ハ曾テ數次邦人中踏査セルモノアルノミナラス特ニ大正七年以來「ラサ」島燐礦株式會社ハ同礁島ノ「グアノ」及燐礦採取其ノ他ノ資源開發ヲ計劃シ同十年以來之カ經營ニ從事シタルモ昭和四年經濟界不況ノ爲引揚ヲ餘儀ナクセル經濟アリ加之右礁島ハ燐礦及「グアノ」以外ニ水產業其ノ他ノ經濟的價値アルノミナラス軍事上ノ利用價値ニ付テモ重視スルノ要アリ帝國トシテハ之カ主權ノ他國ニ歸屬スルハ好マシカラストシ佛國政府ニ對シ本件島嶼ノ領有ヲ宣言セルヲ妥當ナラスト認ムルモノニシテ其深甚ナル考慮ヲ求ムル旨申入レタル處佛國政府ハ右帝國政府ノ主張ヲ容認セサリシヲ以テ爾來帝國政府ニ於テハ問題ヲ未決ノ儘ニ置ク

本議定案ハ國議ニ提出セシテリシニ付ハ之ノ爲メニ「ラサ」島燐礦株式會社ハ同礁島ノ「グアノ」及燐礦採取其ノ他ノ資源開發ヲ計劃シ同十年以來之カ經營ニ從事シタルモ昭和四年經濟界不況ノ爲引揚ヲ餘儀ナクセル經濟アリ加之右礁島ハ燐礦及「グアノ」以外ニ水產業其ノ他ノ經濟的價値アルノミナラス軍事上ノ利用價値ニ付テモ重視スルノ要アリ帝國トシテハ之カ主權ノ他國ニ歸屬スルハ好マシカラストシ佛國政府ニ對シ本件島嶼ノ領有ヲ宣言セルヲ妥當ナラスト認ムルモノニシテ其深甚ナル考慮ヲ求ムル旨申入レタル處佛國政府ハ右帝國政府ノ主張ヲ容認セサリシヲ以テ爾來帝國政府ニ於テハ問題ヲ未決ノ儘ニ置ク

外務省

ノ方針ニ基キ行動シ來リタリ

然ルニ今回在臺灣民間ニ於テハ同礁島開發ヲ目的トスル會社ヲ創立スルノ計畫ヲ進メツツアリトノ情報アリ他方無線電信ノ設備ヲ爲サントスル計畫モアリトノコトナル處本件島嶼所屬問題ニツキテハ前記ノ經緯アリテ我方ハ佛國ノ先占ヲ否認セルモ我方ニ歸屬スヘキモノナリト主張セルコトナキノミナラス佛國カ其領有ヲ宣言シタル事實ハ之ヲ顧慮スルノ要アリテ我方ニ於テ歸屬未定ノ今日前記諸施設ヲ行フニ於テハ佛國ハ當然領土權ノ侵害ナリトナスヘク而カモ此等施設ノ利スル所ハ性質上重大ナル此種國際紛議ヲ惹起スルニ値セスト認メラルルヲ以テ此種施設ハ之ヲ抑止スルコトト致度

外務省

秘

機内送付

新南群島問題

昭和十一年十一月
外務省

秘

一 概説

新南群島ノ歸屬問題ハ昭和八年佛國政府ガ領有ヲ通告シ來レルニ
端ヲ發シ、我方トシテハ從來同群島ニ有シ來レル經濟的權益及同
群島ノ軍事の價值ノ重要性ニ鑑ミ佛國政府ニ對シ領有宣言ノ友誼
的撤回方ヲ交渉シタルモ佛國政府ガ右ニ應ゼザリシニ付爾來帝國
政府ハ佛國ノ同礁島領有ヲ否認シ問題ヲ未決ノ儘ニ置クノ方針ニ
基キ行動シ來リタリ、(詳細昭和八年議會調書參照)

一 新南群島開發問題

然ルニ一昨年臺灣高雄市居住ノ平田末治ナルモノ同礁島開發ヲ目
的トスル會社ヲ創立スルノ計畫ヲ進メツツアリトノ情報アリタル
ニ付取調べノ結果海軍側ガ同島ニ於ケル經濟的足場樹立ノタメ前
記平田ヲ支援シテ漁業根據地ヲ施設セントシ十一年度ヨリ三ヶ年
繼續十一萬圓ノ補助費支出方臺灣總督府上局ニ申入レ其ノ内諾ヲ

外務省

11.11

取付ケタルコト判明セルガ本年ニ入り右開發會社臺灣ニ設立セラ
レタル趣ニシテ其ノ成行如何ニヨリテハ將來日佛間ニ紛議ヲ生ズ
ルノ虞アリ

最近ノ國際狀勢ニ鑑ミ大イニ戒心ヲ要スル次第ナリ、

(註「ラサ」工業株式會社ニ於テモ最近社内及株主間ニ事業再開
ノ議起リツツアル由ナリ)

一 海軍側ノ態度

海軍側ニ於テ今般新南群島開發ニ付積極的活動ヲ開始セルニ至レ
ル理由ハ同群島ノ作戰上及南進政策上ノ價值ノ重要性ニ鑑ミ佛國
政府ガ領有宣言後特別ノ施設及居住ヲナシ居ラザル今日早キニ及
ビ我方ニ於テ經濟的根據ヲ實質的ニ確保シ其ノ地歩ノ擴張ニ伴ヒ
他日機ヲ見テ日佛間ニ機宜ノ外交的工作ヲ行ヒ問題ヲ有利ニ解決
セントスルニアルモノノ如シ

而シテ海軍側ハ新南群島進出策トシテハ漁業根據地經營ヲ最モ適

外務省

11.11

營ト認メ一方技術的ニ營業者ヲ支援シ其ノ進出ヲ容易ナラシムルト共ニ他方臺灣總督府ヲシテ經濟的援助ヲ行ハシメントナシ居リタル處偶々前顯臺灣高雄在任平田某ナルモノ嘗ツテ「ブラタス」島ニ於テ燐礦採掘事業ニ從事セルコトアリ又現ニ高雄ヲ根據トスル海人草及貝類採集事業ニ關係シ居リ且同人ハ軍部トモ相當密接ナル關係ヲ有シ居ルヲ以テ同人及是ト關係淺カラヌ檳塩水港製糖社長其他ヲシテ資本金十萬圓ノ一開發會社ヲ設立セシメ、他方總督府トモ話合ノ上同社補助金ヲ豫算ニ計上セシムルニ至リタルモノニシテ(別添)十一年豫算ニ五萬圓ノ計上アリタルモ外務省ノ反對ニテ十二年度豫算ニ於テモ五萬圓ノ補助金ヲ計上セラレ居レリ)最近ノ情報ニヨレバ平田ハ檳塩水港製糖社長、伊藤日本製糖社長、森日本電氣工業社長ト共ニ新南群島開發ヲ目的トスル開洋産業株式會社ヲ設立シ其ノ事業開始準備トシテ本年五月同島方面ノ視察ニ赴キタルガ海軍ニ於テモ現在數十名ノ兵士ヲ派遣シ、無電、飛

外務省

11.11

行場ノ設置等ヲナシ居ル由語レル趣ナリ

四 新南群島開發計畫ノ國際關係ニ及ボス影響

前述ノ如ク同群島ノ歸屬ニ付テハ我方トシテハ佛國政府ノ領有ヲ認メズ問題ヲ未決ノ儘置カントスル方針ナルガ前記開發計劃ハ右方針ニ背馳スルノミナラズ他日必ズ佛國政府トノ間ニ新ナル紛争ヲ惹起セシムルノ虞アルモノニシテ其ノ國際關係ニ及ボス影響モ鮮カラザルモノアル様思考セララル

即漁業根據地開設ハ既存ノ「ラサ」工業會社ノ事業再開ト異リ新規事業ノ開始ナルノミナラズ棧橋、無電臺、飛行場ノ建設、海賊防禦用武器ノ存置ハ直チニ軍事的施設ヲナシ居ルヤノ疑惑ヲ生ゼシムルベク殊ニ海軍ノ援助及臺灣總督府ノ補助關係明トナルニ於テハ一層其ノ疑惑ヲ増サシムベク右ガ最近ノ日獨防共協定ノ締結ト相俟チ日佛關係ヲ惡化セシムベキハ想像ニ難カラズ紛争惹起ノ結果ハ何等カ解決ニ迫ラレ問題ヲ未決ノ儘置クノ方針ヲ貫徹スル

外務省

11.11

ヲ得ザルベク券法的根據ヨリ見テ我方ニ有利ナル解決必スシモ期
待シ得ベカラズ更ニ日佛紛争表面化スルニ於テハ同群島ノ地理的
地位ニ鑑ミ米、蘭、印及英國ガ日本ノ南洋ニ對スル眞意ニ付種々
憶測ヲ逞シクスベク我が對南方政策ノ前途ニ更ニ暗影ヲ投ズルニ
至ルベキヤ必セリ

は(ト)

外務省

11.11

REEL No. A-0449



アジア歴史資料センター

次官 大工 官

海軍事務 官

四月二十三日

陸軍局長

第二課長

六月十日午後海軍省軍務局横山中

佐ヨリ改訂ニ課監謝野 事務官ハ

左ノ通電ヲアリタリ

新南群島ハ測量ニ赴キタル測量

艦ガドイツ・アハル(知名長島)ニ於テ

漁船日吉丸ヨリ得タル情報ニ依ルニ去

ル五月十日頃英國駆逐艦一隻今ノ島

附近ニ現ル漁船乗組員ノ字名ヲ撮

取テ送付スルコトナリ

外務省

リ立去ルルガ五月十三日頃佛國ノ漁業指

導船モ今ノ島ニ現ルニ由ナリ。

。測量艦ハ未ダ見ラレタルコトナリ

。今般台湾ニ南洋漁業会社ナリ

漁業ヘ入社設テセラレタルガ新南群島

附近ノ日暮熱百二十度ニモ及ブヲ以テ漁夫

ノ宿舎ヲ島上ニ建ツル由ノ情報アリ

外務省



昭和十一年四月一日現在

新南群島打題現状

(傍行)

一 新南群島、帰属問題ハ昭和八年佛領有テ直ニ
 之ニシテ端ヲ表シ 蘭領帝政領有ハ同年八月、因議決定ハ
 基キ佛國、同群島領有ヲ否否シ 打題ヲ未決、儘ニ置テ
 ノ方針ニ基キ行動ニ来リタリ

二 近ニ海軍側ハ同群島、作戦ニ及有止政策ニ、備地ノ
 重要性ニ鑑ミ 佛領有宜宣後 特別ノ施設及居住ヲ
 為シ居テ今日 早キ及更ニ我方ニ於テ経済的根柢ヲ實質的

外務省

ニ確保シ他日機ヲ見テ日佛間ニ機宜ノ外交的工作ヲ行ヒ及キ
 為然ク有シ 台湾在任平田未治及長田保清等力ヲ横越
 水産製糖社長其他伊藤日米糖業社長 森田井電氣
 社長等ヲテ 新南群島開發ノ目的トス 南洋羣島
 株式會社ヲ設立セリ

三 外務省ニシテハ新南群島開發計畫力 前記内閣ノ方針ニ
 反シ且 各閣内閣ヲ紛争セリ見地ヲ 始終 反対ノ態度
 ヲ採リ 前記 台湾總督村前記 海軍 林本會社ヲ建設

外務省

23

大臣抄

次官

歐亞局
第二課



歐亞局長

第三課長

(美濃平紙野紙)

新群島英軍艦乗組員件
 本件、南之海軍省神中佐ヨリ、工口電誌ヲ以テ昨日
 ノ課誌ヲたし、訂正申上リナリ
 四月十八日、葛城ロイヤル島(長島)ニ一港セル處之ヨリ先期
 不測量艦ハラトノ投錨セシメナリ
 同日午後英軍艦ヲ海軍中佐同島ニ上陸シ、葛城ヲエ
 士官上陸、互ニ雜談ヲ交シタルカ相互ニ訪問ヲ交換セシ
 葛城ハ測量艦トシテ、英艦ハ當然、當方ハ測量シテ見
 ノト断定スヘク又陸上ニ和入、漢天若千長ク、タル以下之ヲ見
 タルハ勿論ナリ
 英艦ハ午後六時投錨セリ

外務省

(11.5)

次官



歐亞局長

第三課長

昭和十一年十月

ラサ工業會社新南群島事業開始希望ノ件
 十月七日ラサ工業株式會社ラサ島鑛業所々長尾崎常三郎吉田歐三課
 長ヲ來訪シ
 一、本年春同社新南群島ニ於ケル事業再開ノ件ニ付代議士一宮房治郎
 氏外務省當局ト會談ノ際同島ノ經濟的利用ニ差支ナキ旨ノ話アリタ
 ル趣同代議士ヨリ同社小野社長ニ話サレタルニ付同社ニ於テハ爾來
 事業計畫中ナリシカ此程出來上リタルニ付外務省當局ハ諒解ヲ得ル
 爲一宮氏ニ於テ來省説明ノ筈(同氏ニハ右ノ目的ヲ以テ九月二十八
 日事業計畫書手交済ノ由)ナルモ同氏所用ノ爲猶兩三日來省不可能
 ナレハ不取敢自分ニ於テ書類ヲ携帶訪問シタル次第ナリ
 卜述ヘタルヲ以テ吉田ヨリ「本年春一宮氏ニ對シテ外務省側カス力
 ル意嚮ヲ述ヘタル筈ナク外務省ノ方針ニ其後何等變更ナシ。御話ノ
 外務談ハ一宮氏又ハ小野氏側ノ誤解ナルヘシ。何レニセヨ兩三日中
 ニ一宮氏來省セラルレハ事態判明スル次第故万事ハ其後ノコトトセ

外務省

12.0

24

東亞局長

第二課長
條約局長
第三課長
通商局長

次官
大臣

極秘
寫

東亞局長

第三課長

昭和十二年十二月一日

はつ

新南群島ニ於ケル事業再開ニ關シ「ラサ」工業株式會社ヨリ申出ノ件

(一)十一月三十日「ラサ」工業株式會社東京支店長加藤義光外一名歐亞局第三課ヲ訪レ石澤課長不在ナリシニヨリ事務官ニ對シ左ノ通り述べ課長ニ傳達ノ上何分ノ外務省ノ指示ヲ仰ギ度シト申出アリ更ニ翌十二月一日社長小野美夫以下二名課長ヲ訪問同様趣旨ヲ申入レタリ、即

「ラサ」工業ハ昭和八年新南群島ノ領有ニ關シ日佛間ニ繋争ヲ生ジタル當時ヨリ外務省當局ニ對シ再三事業再開ノ許可ヲ申出テタルガ外務省ヨリ領有問題解決セザル迄同島ニ於テ事業ヲ興スコトヲ差控ヘヨト説示サレ今日ニ及ビ、現ニ吉田前課長「カルカタ」赴任前ニ面談ノ際ニモ同課長ヨリ外務省ニテモ或ル案ヲ立テ居タルガ今次事變ノ爲不可トナリタリト述べラレタル程ナリ、然ルニ極ク最近同群島ニ於テ臺灣任大平田某ナルモノ臺灣總督府及海軍ノ

外務省

12.11

トアラハ之即チ佛國ノ領土権ヲ容認スルモノニシテ帝國政府ノ方針ニ背馳ス、

三、本群島ニ關スル日佛紛争表面化スルニ於テハ同群島ノ地理的位置ニ鑑ミ英、米、蘭等諸國ヲ刺激シ目下ノ國際情勢ノ下ニ於テ帝國ノ立場ヲ不恰要ニ不利ナラシムルニ到ルヘシ。

中曾才佛國ノ同群島領有通告當時「ラサ」燐鉍會社ハ同群島ニ事業再開ノ意嚮ナキ旨ヲ明カニトタリ。

要如上ノ事情ニ顧ミ此際「ラサ」燐鉍會社ノ新南群島ニ於ケル事業再開ハ之ヲ差控ヘシムルコト可ナリ。

外務省

(11.5)

(美濃半載野紙) (一)

援助ニヨリ漁業ヲ經營シ居ルヲ聞込ミ海軍省ニ出頭シ係官(神中佐)ノ説明ヲ求メタル處平田ノ漁業經營(開洋産業ト稱ス)ハ事實ニシテ昭和十年頃ヨリ始メ居レリトノ事ナリシニヨリ「ラサ」工業ニ於テハ昭和八年事件當初ヨリ外務省ヲ通ジ事業再開ヲ申出デ來リタルニ今平田某ナル從來同群島ト何等關係ナキモノニ海軍省ガ後援セラレ事業ヲ開始セシメラレ來レルハ遺憾ナリト云ヘルニ海軍係官ハ「ラサ」工業ガ從前ヨリ事業再開ノ希望アリシコトハ知ラズ目下燐鐵ノ値上リヲ見込シ事業ヲ再開セントスルニ非ズヤ又以前ニ事業ヲ中止セシコトアル會社ナレバ今回再開スルモ又又途中ニテ中止スルヤモ測ラレズ海軍省ヘ申出ナカリシ故今更申出ヅルモ取上グル能ハズ文句アラバ外務省ニ申出ヨト突發ネラレタルヨリ當歐亞三課ヘ出頭シ事情ヲ申上グル次第ニシテ「ラサ」工業トシテハ本問題ニ關シテハ外務省ガ表玄關ト信ジ之ニ再三御願セシニ不拘ラズ知ラヌ間ニ他人ニ仕事ヲ取ラレ殊ニ今燐鐵値上

外務省

12.11

リノタメ事業再開ヲ希望セルヤニ非難サレタルハ甚ダ心外ニシテ株主ニ對スル申譯モ立タズ苦境ニ陥入ル次第ナルヲ以テ若シ外務省ノ御方針ガ從來通り國際紛争ヲ惹起スルガ如キ事業開始ヲ差控ヘヨトノ點ニアルナラバ臺灣平田某ノ開洋産業ノ事業ヲ差止メラレ度然ラザレバ當會社ニ對シテモ何トカ希望ニ添フ様御盡力アリ度何分ノ御指示ヲ仰キ度云々

右ニ對シ課長ヨリ「ラサ」工業申出ノ趣旨ハ諒解セルモ從來ノ經緯モアリ外務省トシテ之ニ對シ如何ナル態度ヲ執ルベキヤハ更ニ檢討ノ要アリ態度決定ノ上ハ何分ノ指示ヲ與フベシトテ引取ラシメタリ

本件ニ關シ「ラサ」工業ノ事業再開ノ希望ハ最近熱心ニ表明セラレ來リタル處ニシテ從來外務省ニ於テハ之ヲ抑制シ來リタルモ平田某ノ事業ヲ嗅キ付ケタル以上問題ハ相當機微トナリ殊ニ今議會ニ於テモ質問アルヤモ測ラレズ旁對策決定シ置く必要アリト認メ

外務省

12.11

25

極秘

東亞局長

第三課長

條約局長

第三課長

通商局長

第三課長

大臣

東亞局長

第三課長

昭和十二年十二月二日

は(イ)

新南群島問題ニ關スル件

十二月二日石澤歐三課長ノ請ニヨリ軍務局第一課員神中佐來課一
 ラサ「工業申出ヲ廻ル新南群島問題ニ付左ノ通り會談セリ
 一先ヅ神中佐ヨリ新南群島漁業根據地設置問題ニ關シテハ海軍省ハ
 一昨年來外務省ト數回ニ亘リ接衝シ來リタルモ東郷前局長ノ反對
 ニテ外、海一致セズ唯本年六月頃ヨリ同局長ノ態度緩和シ右計畫
 ハ默認スルモ公式ニハ承認セズト迄折^レ來^リ、他方海軍ニ於テ
 ハ右漁業根據地設置計畫ニ付臺灣總督府ヲ動シ臺灣住人平田末治
 二年十萬圓ノ補助ヲ計上事業ヲ興サシムルコトトセルモ昨年、一
 昨年共外務省ノ反對ニテ該豫算ハ大藏省ノ承認スル所トハナラズ
 但シ平田ハ現ニ開洋興業ナル一會社ヲ興シ事業ニ着手シ居リ海軍
 モ右ニ短波無電臺ヲ置キ氣象通報ヲナシ居リ他方臺灣總督府モ十
 三年度更ニ十萬圓ノ豫算ヲ計上セリ平田ノ事業ニ關シテハ漁業根

12.11

外務省

ラル、

は(イ)

外務省

12.11

據地ノミデハ利益ナキヲ以テ最近燐鑛ノ値上リモアリ（埋藏四十萬噸ト云フ）燐鑛採掘ヲ計畫シ居リ資金モ五十萬圓位ニ増資ヲ計畫シ居レリト言フ

「ラサ」工業ニ關シテハ海軍側ニテモ全然知ラザル譯ニテモ非ルモ同會社ハ最近ノ燐鑛ノ値上リニテ事業再開ヲ申出デタルニ過ギズ海軍ハ漁業根據地ノ如ク常時人ノ留ル設備ヲ欲シ不況期ニ入レバ直チニ引上グルガ如キ營利會社ノ來ルヲ欲セズ云々

右ニ對シ石澤課長ヨリ「ラサ」工業ノ事業再開ノ希望ハ書面ニテハ本年ニ入りテ提出セルモ夫レ以前ニモ吉田前課長ニ對シテハ口頭ヲ以ツテ申入レアリ右ニ對シ外務省ハ之ヲ抑制シ來リタル經緯アリ海軍側トシテハ「ラサ」工業ノ割込ヲ全然認メザル次第ナリヤト問ヘルニ神中佐ハ自分一個ノ考トシテハ反對ニテ自分トシテモ平田ニ對シ利益少キ計畫ヲ引受ケシムルニ當リ新南群島全部ニ對シ仕事ヲナスコト約シタル關係アリ目下値上リノ燐鑛ノミ「ラ

外務省

12.11

サ」工業ニヤラセルハ到底困難ナリ但シ「ラサ」工業ガ平田ト協同シ事業ヲナスニハ反對ニハ非ズ現ニ自分ハ平田ニ對シテハ「ラサ」工業ヨリノ申出アラバ考慮セヨト申聞カセ居レリ然シ「ラサ」工業ハ平田ト協同シ平田ニ資本ヲツギ込ムコトハ反對シ居ルヲ以テ（平田ハ資本金五十萬圓ニ増加ニ際シ金主ヲ求メ居レリ）協同經營ハ困難ナルベシト述ベタリ

四 更ニ石澤課長ヨリ新南群島問題ニ關シ外、海ニ意見不一致ノ儘ニ打過グルコトハ將來ノ對策上對外的ニ不利多カルベシ即今後日佛間ニ何等紛議等發生ノ場合ニ外務省、海軍省間ニ意見ノ一致ヲ見ル様本件ヲ再検討シ置クコト必要ナリ就テハ「ラサ」工業ノ件ハ外務省ト同工業トノ從來ノ行掛リモアリ海軍側ニ於テ右ニ對シ全然反對的態度ヲ執ラレザルコト望マシト述べ置キ會談ヲ終リタリ

兵 尙神中佐ノ極秘トシテ語ル所ニ依レバ新南群島ハ對英作戰上甚ダ樞要ノ地位ヲ占メ（其ノ重要性ハ佛支間ニ繫争トナリ居レル）バ

外務省

12.11

ラセル」群島ノ比ニ非ズ）潜水艦ノ根據地位ニハ充分役立チ得ベクソレガ爲ニハ重油貯藏所、棧橋（百萬圓位）等モ必要トナルモ目下ハ前記漁業根據地ノ程度ニテ（小棧橋、人及食糧品、氣象通報）足ルベシ。佛蘭西ハ目下印度支那確保ニ手一杯ニテ新南群島ニテ日本ガ少々位積極的ニ行動スルモ動キ出スコト無カルベク若シ佛ガ強硬ニ日本ニ反對シ實力ヲモ行使セントスルガ如キ場合ニハ寧ロ日英對戰ノ場合ニシテ海軍トシテハ其處迄來ルトハ考ヘ居ラズ云々

外務省

12.11

「ラサ」工業株式會社
 本社 西淀川區高見町一ノ六四
 目的 肥料及工業藥品製造並燐礦鑛業
 設立 大正二年五月
 株式 總株數二十四萬株（新十二萬株）
 資本 千二百萬（拂込七百五十萬圓）
 社長 小野 義 夫
 東京出張所、「ラサ」島業所、其他

外務省

(日本標準規格B5)

歐亞局長

極秘

一二 一二 四

第三課長

軍務局長

新南洋群島前進基地主事

佛軍艦（艦名不明）只今入港。

次官

北南洋群島問題

四日

第二課長

海軍

(木田樹)

一二 一二 四

軍務局長

新南洋群島前進基地主事

一、入港佛軍艦ハ「D'UMONVILLE」ナリ是ヨリ先鮮明ナル大國旗
 掲揚日本人占領ヲ明示ス午後一時頃艦長外士官二名上陸之ニ應對ス艦
 長曰ク本島ハ一九三三年四月十日以來佛領ニ屬スルヲ以テ之ガ視察及
 再ビ佛國旗掲揚ノ爲ト又當時ノ記念石確認ノ爲來航セリト我之ニ對シ
 我等ハ本島ノ佛領ナルコトヲ承認セズト答ヘ尙本群島ノ歴史及本群島
 ニ於ケル我等ノ事業ニ對シテ帝國政府ノ態度等ヲ文書ヲ以テ艦長ニ交
 付セリ終テ過去ノ事業ノ遺跡ヲ案内ス數時間ニテ彼等ハ午後更ニ上陸
 スル旨言遣シ諸設備ヲ撤影歸艦セリ。

四一〇四時

海軍